

小規模企業景気動向調査 [2023年2月期調査]

～需要回復から明るい兆しが見えるも、採算の低調が続く小規模企業景況～

<産業全体>

2月期の産業全体の業況は、コロナウィルス感染症の流行も落ち着きが見られ、外国人観光客等も増え始めたことから、売上額・採算・業況DIが小幅に改善し、全DIで改善の傾向が見られた。旅行支援の効果や、今まで制限が多かった外食などもニーズが高まっている、とのコメントも見られた。しかし、依然としてエネルギー価格高騰等からのコスト圧迫の影響は続いており、採算DIが低調に推移している。

DI	1月	2月	前月比
売上額	▲36	08	44
採算	▲505	▲457	48
資金繰り	▲37.7	▲35.9	1.8
業況	▲335	▲299	36

<製造業> 需要回復への見込みから受注が好調も、採算DIが低迷する製造業

製造業は、売上額DIが大幅に改善し、採算・業況DIが小幅に改善した。物流や品不足が改善され始めたことから売上額DIは改善したが、採算DIは低調に推移している。食料品関連は、全DIが改善し、特に売上額・採算DIが大幅に改善した。旅館へ卸を行っている事業者にて売上げが好調である、とのコメントがあった。繊維関連は、売上額DIは大幅に改善し、採算DIは小幅に改善した。夏物衣料の需要を見越した受注が増え、回復傾向にある。機械・金属関連は、売上額・業況DIが小幅に改善した。

DI	1月	2月	前月比
売上額	▲04	49	53
採算	▲549	▲517	32
資金繰り	▲399	▲382	1.7
業況	▲348	▲321	27

<建設業> コスト高騰に係る価格転嫁への対応で、明暗が分かれる建設業

建設業は、全DIが改善し、採算DIは大幅に改善し、また業況DIが10pt近い改善となった。年度末に向けた受注が好調であることから、売上額DIがプラス水準となった。一方で、業界全体としてコスト高騰分を価格転嫁できているか、否かで業績の明暗が分かれ始めている。一部の事業者での価格転嫁に踏み切れない要因として、消費者や長年関係のある取引先へ与える負担が大きすぎる、とのコメントが見られた。

DI	1月	2月	前月比
売上額	▲05	39	44
採算	▲523	▲454	69
資金繰り	▲378	▲349	29
業況	▲355	▲257	98

<小売業> 需要回復の兆しから売上額DIは上向くも、採算DIが低水準で停滞する小売業

小売業は、採算DIは大幅に改善し、売上額・資金繰り・業況DIが小幅に改善した。衣料品関連は、採算・資金繰り・業況DIは大幅に改善し、売上額DIは小幅に改善した。季節の変わり目における衣料品需要や、価格転嫁が進んでいることなどが、全DIの改善に繋がった。食料品関連は、売上額・採算・業況DIが大幅に改善した。耐久消費財関連は、採算DIが小幅に改善した一方で、物価高騰により単価の高い商品への買い控えが見られ、売上額・業況DIが小幅に悪化した。

DI	1月	2月	前月比
売上額	▲126	▲96	30
採算	▲57.1	▲50.4	6.7
資金繰り	▲45.9	▲43.0	2.9
業況	▲43.1	▲39.9	3.2

<サービス業> 需要は高まるもコスト高騰の影響から、採算の改善までいかないサービス業

サービス業は、売上額DIは大幅に改善しプラス水準となったが、業況DIはわずかに悪化した。旅館関連は、国内外の観光客が増え続けており、売上額DIは小幅に改善した。一部の事業者では旅行割の支援金が振り込みまで1～2ヶ月程度かかるため、資金繰りに困っている、とのコメントがあった。クリーニング関連は、コスト高騰の影響から脱せず、業況DIが大幅に悪化し、採算DIは5期連続で悪化している。理・美容関連は、売上額・採算DIが大幅に改善した。

DI	1月	2月	前月比
売上額	▲1.1	39	50
採算	▲375	▲354	21
資金繰り	▲27.1	▲27.6	▲0.5
業況	▲204	▲218	▲1.4

調査概要

・調査対象:全国約300商工会の経営指導員

・調査時点:2023年2月末

・調査方法:対象商工会経営指導員による調査票への選択記入式

※DI(景気動向指数)は各調査項目について、増加(好転)企業割合から減少(悪化)企業割合を差し引いた値を示す。